

### 31【P2】 I -347

中南米産 *Salvia* 属植物の成分探索

○成川 佑次<sup>1</sup>, 福井 マリ<sup>1</sup>, 西宮 彰子<sup>1</sup>, 金井 邦紘<sup>1</sup>, 甲斐田 祥子<sup>1</sup>, 葛 忠彦<sup>1</sup>, 竹田 忠紘<sup>1</sup>, 畑野 研一郎<sup>2</sup>(<sup>1</sup> 共立薬大,<sup>2</sup> 名古屋市大院薬)

【目的】 近年、メキシコ産幻覚植物 *Salvia divinorum* Epling&Jativa (Labiatae) より得られた *neo-clerodane* 型 diterpenoid である salvinorin A がオピオイド k レセプターに選択的に結合し、種々の生理活性を示すことが明らかとなった。

本研究では植物からの医薬資源探索研究の一環として、*S. divinorum* に近縁の中南米産 *Salvia* 属植物由来 diterpenoid 成分の検索を行い、得られた化合物についてオピオイド受容体に対する活性について検討を行った。

【実験・結果】 *S. divinorum*, *S. fulgens*, *S. leucantha* をはじめとする中南米原産の数種の *Salvia* 属植物の乾燥した葉をアセトン抽出し、得られたエキスを活性炭カラムに付し、粗 *terpenoid* 画分を得た。更に各種カラムクロマトグラフィーを繰り返すことにより、*S. divinorum* からは salvinorin A (**1**) を含む 5 種の *neo-clerodane* 型 diterpenoid を得た。また、*S. leucantha* についても同様に分離を進め、新規構造を有する化合物 **2** を単離し構造を決定した。その他、いくつかの *Salvia* 属植物より diterpenoid 成分を得ており、併せて報告する。また、活性については現在検討中である。

